

# 科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

105

## 動き出した各界

「このままだと地球が大変なことになる」。1987年生まれの筆者が小学生のころから聞かされた続けた警告だが、今「本当だったな」と実感する。「平年並み」が無意味になった気温、毎年の気象災害、口にしづらくなった食料。それらを通して、気候と生態系の異変を肌身に感じるようになってきた。しかし、「先進国の都合で途上国の経済活動を制限できるの?」というロジックに無力感を覚えた当時と違って、今はSDGs(国連の持続可能な開発目

ステークホルダーだ。構築やイニシアチブ。近年、ESG(環境・社会・経済)の持続可能性のためにSTI(科学技術イノベーション)がSDG(社会・企業統治)の観点で大きく経営や投資行動(STI for SDGs)を促進させている産業界。200を超える学内の研究・教育活動をSDGs登録プロジェクトとして可視化した東京大学をはじめ、大志向型STI政策へ学や公的研究機関の取り組みも増えてきた。求められる変革 基礎研究の重要性はこの間議論されてきたSTIの在り方に関する変革を、基礎研究の力を守るためにもSDGsは求めている。科学技術振興機構(STI)もSTI for SDGs推進のための研究プログラム実施や広報・啓発活動など組織を挙げて取り組む。今春にはリポート「SDGs達成に向けた科学技術イノベーションの潮流」を公開した。SDGs達成に向けた科学技術イノベーションの潮流」を公開した。SDGs達成に向けた科学技術イノベーションの潮流」を公開した。

# SDGs達成へSTI活用



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター フェロー(企画運営室) 丸山 隆一

東京工業大学総合理工学研究科修士課程修了。出版社勤務を経て2020年より現職。21年3月公開のリポート「SDGs達成に向けた科学技術イノベーションの実践」の編さんに参画。

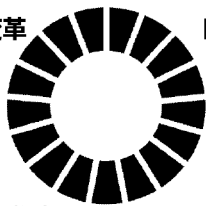
## SDGs達成のための科学技術イノベーション

### ■国連などの推進システム

- ・技術促進メカニズム (TFM)
- ・STI フォーラム
- ・オンラインプラットフォーム
- ・STI for SDGs ロードマップ・ガイドブック、パイロットプログラム など

### ■STI システムの変革

- ・ミッション志向型 STI 政策
- ・オープンサイエンス
- ・トランスディプリナリー研究
- ・ELSI の考慮 / RRI
- ・科学 - 政治 - 社会のインターフェース など



### ■さまざまなステークホルダーの取り組み

- ・政府、地方政府
- ・企業、金融、スタートアップ
- ・大学・研究機関
- ・NPO/NGO など

(JST「SDGs 達成に向けた科学技術イノベーションの実践」(2021年3月)より改変)